
チートで最強ってこういうことでしょ？ パート2

ふるあむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チートで最強ってこういうことでしょ？ パート2

【Nコード】

N0607L

【作者名】

ふるあたま

【あらすじ】

チートで最強が嫌いな人が書いたチートで最強な物語。

飽くまで主観ですよ。

(前書き)

最強チート系が好きな方は迷わずブラウザバックしましょう。

動物園でライオンの檻に落ちた子を助けようとして、僕は飛び降りた。

すると着地点に溝があり、足首を折って動けなくなった。隣の子が食べられて、僕も食べられて死んだ。

目が覚めると、僕の目の前に神様がいた。

どっちにしろ死ぬ運命にあった子に巻き込まれて僕は死んだらしい。これはいわゆる神様の手違いというやつのようなのだ。

そんな理由で、僕にやり直すチャンスを与えるらしい。

しかしそれには条件があるという。異世界に行って、世界を脅かす魔王を倒せば、元の世界で生き返らせてくれるそうだ。

手違いだからチャンスを与えるのに、条件を付けるとは、なんとも横暴な糞野郎だろう。自分の尻も拭えないクズめ。

そして僕は、いわゆるチート級の力を授かった。

神様が僕に、「君はたった今、最強になった」と言った。

なるほど確かにチートって裏技のことだから、最強にならないとおかしい。

最強。

最も強いということであって、それは敵う者がいないということなので、つまりは誰がどうあるうとなんであるうと僕には勝てないということである。

だから僕は手っ取り早く、目の前の神様を蜂の巣にしてミンチに

して瓶に詰めて殺した。

そして僕はチートを使って生き返った。

物語は完結。

矛盾は零。

(後書き)

はい。またやりました。

あまりの賛否両論っぷりが堪らなかったの。

えー、何度も言いますが、最強チート系の批判ではないですよ。

こういうことすれば良いんじゃないの？みたいなことです。

あー、なんで今、タケコプターで逃げないんだよー、みたいなありますよね。

まあ、ライオンが人を食べるのかどうかなんて知りませんがね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0607/>

チートで最強ってこういうことでしょ？ パート2

2010年10月21日22時56分発行